

こんな活動やっています

湖東地域材循環システム協議会

協議会は、森林の持続的管理、ストックリスクの分散、地域資源の徹底利用を理念とし、地域の森林を保全しながら、流域のニーズに対応できる循環システムの構築を目指します。「山へ返す」を合い言葉に、Kikidasプロジェクト(仮称)をスタートし、地域の森林と流域をつなぐコーディネーターとしての団体設立に向け活動中です。

協議会は、東近江および湖東地域を中心とした森林所有者、製材業者、木製品加工業者、家づくり団体、設計士、木質エネルギー事業者、市民活動団体、行政等が構成員(24団体、約40名)となり、それぞれの得意分野を活かしつつ、異業種と連携するため3つの部会を設置し、具体的な事業化に向けた調査検討を行います。事業化に向け、積極的に地域の企業や他の活動団体と連携し、行政・市民・企業の協働により地域の活性化を目指します。各部会には部会長を置き、副会長を兼ねています。協議会の中には、必要に応じてワーキンググループを設置し、具体的な事業化に向けた検討を進めることになっています。

仕組みづくりについて提案します。

【ウッドストック部会】森林の持続的管理と、計画的な伐採を実現するための提案を行います。また、建築用材・家具用材の規格化の検討、湖東地域材の性能調査を行い、効率的なストックの方法とそのストックリスクの分散の仕組みを検討します。

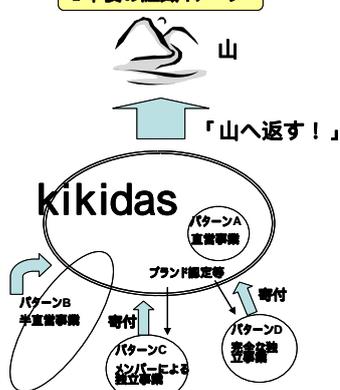
【ウッドワーク部会】湖東地域ならではのプロダクトデザインの提案による新たな商品の開発、また薪・ペレットをはじめとする木質エネルギーの活用に向けた調査検討を行います。

「地方の元気再生事業」採択!

今年、内閣官房の目玉事業である地方の元気再生事業になんと10倍の難関を突破して採択が決まりました! 取組の詳細については、次の問い合わせ先まで:

東近江地域振興局森林整備課担当
山口 TEL0748-22-7718
湖東地域振興局森林整備課担当
世戸 TEL0749-27-2217

2年後の組織イメージ



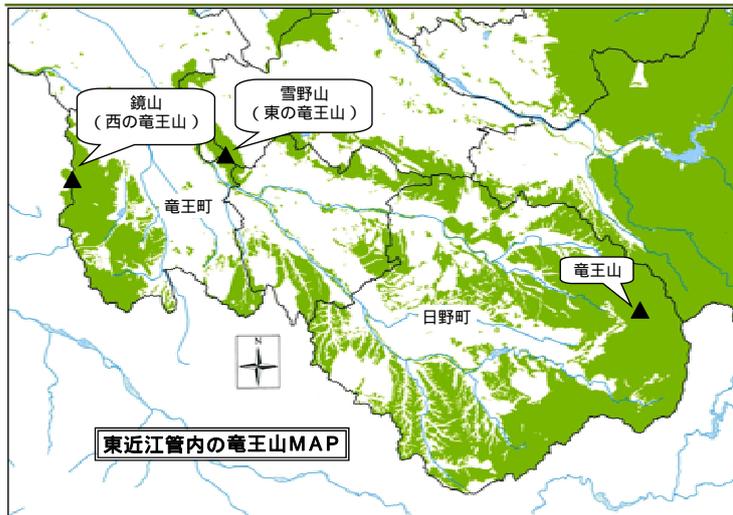
西と東の

竜王山

りゅうおうざん

あなたは「竜王」と聞いて何を思い浮かべますか? 将棋の駒、あるいは「ドラゴンクエスト」のキャラ?

私たちの東近江管内には「竜王」を町名に冠した「竜王町」があります。この町名は、現在の町が誕生した際、合併した双方の村に「竜王山」という同名の山があったことに因みま



山(標高3088m)の俗称です。

ところで、「竜王山」と呼ばれる山が、滋賀県内にあと2つ、蒲生郡日野町と栗東市にあるのをご存知ですか? さらに全国を見渡すと、「竜王山」または「龍王山」と呼ばれる山がなんと約60峰、そのほとんどが瀬戸内海を中心に関西から九州にかけて分布しています。また、その平均標高は約4003。低い山が多いのです。

そもそも「竜王」とは竜神の王、「法華経」第一序品に、仏法を守護する「八大竜王」として登場します。「八大竜王」は「雲を起こし雨を降らせる神力を持つ」と信じられ、古来より雨乞いをする者の神となっていました。あらゆる手段を尽くしてもなお不足する水を求めて、近くの水源の山など水と関係のありそうな山に「八大竜王」を祀って「竜王山」として尊く思い、頂上で祈禱をしたり火を焚いたりしたという話が各地に残っています。雨の少ない地方の標高の低い山が山岳信仰の対象となっていたのです。

さて、「雨乞い」といえば農民のものと思いがちですが、日野町木津にある「雨引神社」は、筏師や木材師たちが川を木材運搬路とするために川の水量を増す雨を祈願した神社だと言われています。「竜王山」と林業には、「雨乞い」という意外なところで接点がありました(ちょっと強引ですが)!

治山事業にご協力願います!

当森林整備課の最近5年間の治山事業費は、下のグラフのように年々減少しています。今年度の当初予算は1億6千万円で、5年前と比べると1/3以下です。これは滋賀県財政構造改革プログラムの影響を強く受けているためです。

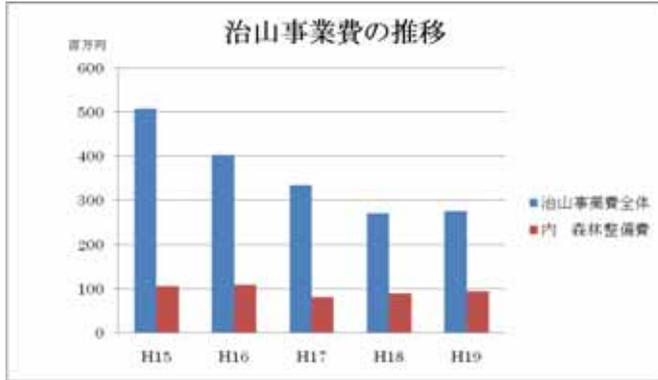
少なくなってきた予算を有効に使うため、人や財産に直接大きな被害が出ると予想される箇所を優先して事業を行っています。また、地球温暖化防止につながる「山を元気にする事業(森林整備)」にも力を入れています。保安林で行う森林整備事業は、国



複層林への誘導
(日野町蔵王)

も力を入れており、県でも重要性が増してきています。この5年間では、「松くい虫被害林の樹種転換や複層林造成として150haの植栽」や「複層林への誘導や保育作業として320haの本数調整伐(間伐)や除伐」を行いました。

本数調整伐や除伐により林の中に日光を取り込むことは、林床に草を生やし土砂や養分の流出を防ぐことにつながります。その結果残した木が元気になって大きく成長していくことで、地球温暖化の原因の一つである空気中の二酸化炭素を減少させます。予算が少なくなったからといって、荒れていく山を放っておくことはできません。県が森林所有者とともに「山を元気にしていく」ことが、治山事業の役割の一つです。今後とも森林所有者の皆さんのご協力と県民の皆さんのご理解をよろしくお願いいたします。



2030年 あなたならどっち?

今から23年後の滋賀県ってどうなっているんでしょう?このまあいったらA?それともB?どちらに進むかは、今の私たちの選択にかかっているのかも?

A

B



漫画・オノミユキ



鳶(とび)



その名の通り猛禽類を思わせる精悍な姿、この道具は丸太を動かすときに使われる。不安定な足場の中、重く持ちにくい丸太を動かすのは危険が付き物。指を挟むぐらいならまだしも手や足を挟むこともある。また、地面にある丸太を動かすのは大変で、下手をすると腰や膝を痛めてしまう。“危険回避と労力の軽減”山でこれほどありがたいことはない。

しかし、この“鳶”使いこなすことが難しい。慣れるまで全然思い通りにならない。押しても引いても動かないこともある。つい両手でつかんで「よいしょっ」。扱いにくいからと、手取り早い方法で片付けてしまうことが多い。

鷹の目ならぬ鳶の目が作業を見つめる。

安全第一! (コラム担当 ガ)



編集後記

暑い夏がやっと終わり、実りの秋になりましたね!仕事と家事に加え、棚田の稲刈りという重労働に疲れ気味の今日この頃...秋の味覚だけが楽しみの私です。そんな中、Vol.4をお届けすることが出来、感謝!(編集担当 山口)